

「高校入試がなかつたらいいねえ」

高校受験生をもつお母さんたちの座談会

大 滝 浩 道

新潟県では昨年度から高校の通学区の制限が全廃されました。初年度の今年は際立って目立った変化はありませんでした。二年目の来年はどう動くか？受験生と保護者にとつては大きな悩みになっています。

編集部は受験生をもつ五人のお母さんたちに集まってもらい座談会を企画しました。五人の子どもさんはいずれも新潟市内の中学校に通っており、来年の春、高校受験をむかえます。
(編集部)

司会（大滝浩道・所員） 本日は来春、高校受験をむかえる子どもさんをもつ、新潟市内のお母さん方に集まってもらいました。テーマは今の高校受験の問題点はなにか。まずどんな感想を持っているのかお聞きします。

最初に既に高校受験を経験された方から話して下さい。佐藤さんからお願います。

佐藤 この春、高校受験を経験しました。年子ですから続いて今年も二人目が受験です。

子どもは昨年の兄の高校受験を見ているから、勉強するのは当たり前と思っているようです。でもまだ勉強には本腰が入ってないように思います。逆に親の方がその気になっているのに。私は昨年、心配で胃が痛くなり医者通いを経験しました。泣きました。今年二人目だから楽かといえそうですがありません。昨年は高校受験のシステムが変わったので、それに振りまわされて大変でした。今年は多少違うかな、と思っています。

司会 病院通いですか。大変でしたね。水品さんのところも体験者ですか。

水品 うちは子どもが四人いて、上がいま二十歳です。今年は三人目の子どもが高校受験です。一番上の子のときはあまり緊張しませんでした。それは親が過度の期待をもたなかったこともあると思います。本人もどうにかなると思っていたんでないでしょうか。最後に中学校の担任の先生のところで押印するときも、あまり緊張はしませんでした。きつと下の子が小さくて手がかかっていたから、四分の一程度の目の届き具合というところでしょうか。そんな状態でしました。スベリ止めは本人が受けないと言っていました。受かってから本人は勉強しなくても合格するなどといって



座談会に出席した方たち（左から佐藤さん、阿部さん、飛田さん、外山さん、水品さん）

いました。そんなで毎年やつと進級して、どうやら卒業しました。二番目は進路相談で〇〇高はどうかと聞かれて、安心したのか逆に勉強しなくなりました。結局、ランクは下げましたが、押印するのときになって担当の先生が座をはずされて、親子二人きりで三〇分間も話し合いをして、ギリギリの選択をしました。上の二人の兄は塾に行っていないなかったので、自分の力がわかりませんでした。下の子は勉強を良くしています。

司会 あとの三人の方は、来年の春の高校受験が初めてになるわけですね。阿部さんからどうぞ。

阿部 親としては目下のところ、自分の子どもがどこの高校なら入れそうか考えています。こどもはのんきに「公立ならどこでもいいだろう」なんて言っていてゲームなんかやっています。勉強や成績について話すと逆にやらなくなり悪循環に陥っています。家庭では高校受験の話はなるべく話さないようにしていますが、やっぱり話してしまいます。こどもは「親は大げさだ」と言っています。どうにかなると思っっているようです。親としてはやはり公立の大学進学率の高いところと思っています。

司会 外山さんも初めですね。

外山 主人が高校教員で、私も教員をしていましたから、情報はよく入ってくる方だと思います。また誰々さんがどこの高校に入ったというような情報も入ってきます。うちの子は野球部に入っていて高校球児が夢なんです。先輩が高校の野球部でエースなので、別なところを狙っています。いまのところは野球中心の生活です。塾にも通っていますが家ではあまり勉強しません。夏休みがヤマといわれていましたが、あまりやっていないようでちよつと悲惨です。

司会 最後にりましたが、飛田さんのところはどうか。

飛田 うち立志望校をずうつと変えています。いまのところは初志貫徹です。あまり最初からランクを下げるたくないんだと思います。努力圏、合格圏、安全圏のなかで、安全圏で初志貫徹できればいいんですが。でもこの前の模試の結果を見て「もう一度考えたら」と言いたい心境です。

親子とも実際、高校のこともよくわからないんです。子どもはオープン・スクールに行った高校に「入りた

い」という程度なんです。

司会 子どもさんも含めて入りたい学校というのはどんな基準で選びますか。

佐藤 いろいろありますが、やはり自宅から自転車を通えるところです。バスであればバスの便のいいところです。その上で少しでもランクの高いところでしょうか。

水品 塾に通ってないと自分の子どもがどの程度のランクにいるのかわからなくて大変困りました。こまかなことを先生に聞いても「塾で聞いてください」といわれます。

阿部 そうそう、塾に入れたらと言われました。

水品 統一模試がないので子どものランクが良く分りません。

飛田 私ら中学校のときは全責受ける模試が学校であつて、みんな受けたよね。塾頼みでなく、そんなものが欲しい。学校でやって欲しい。塾は三年生の部活をやめた夏以降は九割方、通ってますね。

それから評定平均値についてですが、中学校に入つた時点で説明して欲しい。私立の併願で評定平均値が

学校にもありますが、3・0以上でないと思われな
い学校があることを知らなかった。評定平均値は直ぐ
に上がるものではないし。評定平均値で受ける学校が
決まってしまうわけですから。

司会 最近では高校の説明会がよくやられているよう
ですが、皆さんは行ったことがありますか。

阿部 あれ聞いて、ああくやっぱりと思いました。や
むを得ないことでしょうが、志望校の先生のお話を聞
いても頭に残りません。パンフだけでもいいと思いま
した。

飛田 説明する校長先生がいいところだけ話して終わ
りという感じですね。

阿部 パンフをみるくらいです。

水品 行かなくてもいいとは言われませんが、役立ち
ません。

外山 私は私立のホームページを見ました。併願した
い私立でしたから。ところが少しがっかりしました。
学園祭の場面が出ていましたが、ゼンゼン盛り上がっ
てないのでガッカリしました。学校はやはり子どもた
ちにとって楽しいところであって欲しいですから。

阿部 私も説明よりもパンフを見るくらいです。その
パンフも普通科の場合にはたくさんのコースや学科が
あるのに高校側の説明が不十分です。

外山 本人が将来何になりたいか良く分らなかつたり
して迷うとき、まず普通科と思います。ところがコー
スがたくさんあって迷います。一度選択すると途中で
なかなか変更できなくて。しかも転校が出来にくいな
どということが分りませんでした。普通科が増えてい
るようですが、丁寧な説明が欲しいです。

水品 毎年高校受験のシステムを変えるのは子どもに
も負担になるし、やはり変えたいと思います。

佐藤 全入ならいいのにねえ。

司会 ありがとうございます。

座談会を終えて……

最近の高校入試で感じること

大 滝 浩 道

座談会に参加していたいた方は、いずれも来年の
春に高校受験をむかえるお子さんをおもちの新潟市内

在住のお母さん方です。

緊張とストレスから病院に通った体験を持つ方もおり、深刻な「十五の春」を垣間見た思いがしました。

お話のなかで私が感じたことの一つは、県教委の受験制度いじりが毎年のようにあり、受験生や親がそのたびごとに振りまわされていることです。文部科学省は依然として「適格者主義」を掲げて、高校全入を拒んでいます。当面のところは県教委による安定した受験システムの提供が求められているようです。

二つめには大方の生徒や保護者が「入りたい学校」としての共通の願いが「自宅から通える学校」であることです。もちろん大学進学に強い学校とか、部活が活発であるとか、いろいろあるでしょうが、最低の願いが自宅の近くの生活圏のなかで「入りたい高校」があつて欲しいということのようです。

そこからは昨年からじまつた高校入試の全県で通学区制限を全廃した必然性が見えてきません。「入りたい学校」を全県的視野で選択する生徒、保護者が一体、何人いるのでしょうか。受験競争を刺激する効果はあつても、制度を根本的に改める理由があるとは思われません。生徒や保護者の悩みをまた一つ増やすだ

けのようです。通える範囲に「入りたい学校」をつくる努力が必要ではないでしょうか。

最後に最近はやりの学校説明会について感じたことは、対象となる生徒や保護者の要望に合致していないように思いました。高校側が「入りたい学校」になるべく努力している割には評判はイマイチのようです。

おそらく最近、高校が大きく変貌していることに、生徒や保護者がついていけないでいる実態があると思います。たとえば座談会のなかで、普通科のなかがたくさんのコースに分かれている現実が理解されていない様子が出ていました。これらの普通科における多様な学科、コース制導入は県教委の進める改革で出てきたものです。県教委と高校側の丁寧な説明責任が求められています。改革は中学校の生徒と保護者の理解なしには成功しません。

高校入試にはまだまだ課題が山積みしているように感じた座談会でした。

（おおたき こうどう・所員）